

## 中南信ニュース

# バックホー操作を指導

## 県と安曇野支部が南農高生に

県安曇野建設事務所(下里巖所長)と長野県建設業協会安曇野支部(小林昇支部長)は15日、南安曇農業高校環境クリエイト科の施工テクニカルコースと設計エンジニアコースの2年生24人を対象に、バックホー操作の実務研修を同校第2農場内で実施した。

バックホーの実務研修は今回3年目。同生徒らは9月3日に鉄筋の結束作業と型枠の製作作業の指導も受けている。開校式で安曇野建の藤本済整備課長は「私たちの社会生活を安全に保つ上で重機は欠くことのできないもの」と語り、操作次第では危険を伴うことも常に念頭に研修を第1歩にしてほしいと期待。また技士会安曇野支部の関洋一支部長も「将来建設業に携われればバックホーはどの会社でも使用するもの。講師の指導で操作を覚え今後活かしてほしい」と述べた。さらに講師を務める加科喜敬氏(猿田建設)が、バックホーのエンジンスタートや安全レバーの使用方法、左右のレバー操作方法など安全指導を行った。

実務では、猿田建設が用意した学校には無い11トン



猿田建設の加科氏らが指導した

の中型と3トンの小型バックホー2台で、全員が両運転席に座りレバー操作を体験。同社の加科氏と丸山正憲氏、宮澤大和氏らが講師を務め、農場内の敷地を掘削したり埋戻しをするなどを体験した。

同校では、3年生になると大型特殊免許や車両系建設機械運転技能講習を取得する生徒が多数いる。今回の研修で生徒からは「左右のレバーの同時操作や力加減が難しかったが、操作する楽しさ、難しさを学べた」「何回か作業をするうちにスムーズにできた実感できた」「中型より小型のほうが力は弱かったが扱い易さを感じた」「休憩中に企業の方がバックホーを動かしているのを見て、私たちとは違い動きに迷いが無く感動した」などの感想が寄せられた。